



富谷市立日吉台中学校 令和8年10月15日 No.12

は る か



すてきな大人になるための「あいさつ・あきらめない・あいてのために」

学校 HP : <https://tomiya-hiyoshidaijhs.edumap.jp/>

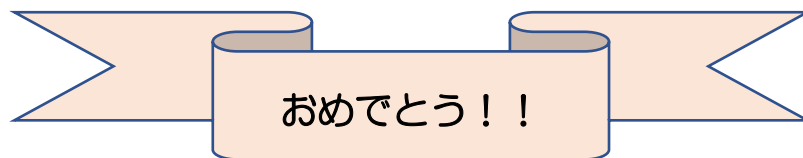
今日から後期スタート！！

実質5日間の秋季休業期間を終え、今日から後期の学校生活が始まりました。午前中は今年度最後の水泳授業に出掛け、一生懸命に技能向上に努めてきました。さすがに、午後はその疲れが見えたため、体育館に一堂に会することはせず、放送による始業式を実施しました。

式では『「人の力になるのも人であり、人を支えるのも人です」そして、そんな人とのつながりの中で、一生懸命努力した経験こそが、その人を支える力になります。後期は一年間の総仕上げの時期です。三年生は進路実現に向けて、二年生は学校を中心として、一年生は先輩になる準備として、それぞれが大切な時期を迎えます。どうか、**支えてくれる人への感謝を忘れず、目の前のことに全力で取り組んでください。**そして合唱コンクールをはじめ、いろいろな場面で結果だけを追い求めるのではなく、「自分は、自分たちは本気でやり切った」「仲間とともに最後までやり切った」そう胸を張って言える取組を期待しています』と、校長から式辞がありました。

1・2年生は98日間、そして3年生はわずか86日間の後期がスタートします。まずは、再来週に迫った合唱コンクールで、学級が一丸となり素晴らしいハーモニーを披露できるよう、最後の仕上げに取り組んでほしいと思います。





【地区読書感想文コンクール】		最優秀賞	H・Nさん
優秀賞	F・Mさん	優良賞	A・Rさん
優良賞	O・Hさん	優良賞	S・Yさん
優良賞	A・Iさん	優良賞	H・Sさん
優良賞	K・Tさん		
【仙台地区読書感想文コンクール】		優秀賞	H・Nさん

命の大切さを知る

5日（月）、「命の大切さを学ぶ教室」を実施しました。当日は、青信号で横断歩道を渡っていた際に交通事故に遭い、当時9歳だった愛息の生命を不条理に奪われた遺族の方を講師にお招きしました。

『事故の朝、「行ってきます」と出掛けていった長男が、しばらくするとなぜか戻ってきました。理由は言わず、再び「行ってきます」と学校に向かった、その言葉が息子の最期の言葉になってしまいました。もう少し、会話をしていれば、（事故に遭った時間に）

息子が横断歩道を渡ることはなかったはず…』という後悔の念に満ちた、当日の朝の話から講演が始まりました。その後の、講師の方が淡々と語る壮絶な体験を生徒は身動きもせず、真剣に聴いていました。中には、目を潤ませながら耳を傾けていた生徒もい



感想を述べるFさん

ました。中には、目を潤ませながら耳を傾けていた生徒もいました。最後にF・Mさん（3年）が全校生徒を代表し、感想と御礼の言葉を述べました。

「**3年後に大人になる私たちは、決して（交通事故の）加害者にならないことを誓います**」という力強い言葉に、講師の方も安心していた様子でした。

講演を聴いた一人一人が、生命の重さについての理解を十分に深めることができた貴重な学びの時間となりました。